

「新しい文化会館の基本構想」 (活動内容の検討)

テーマ：新しい文化会館に必要な活動とは

共有されたイメージ：

「日常の中にある文化を介在して、人と人がつながっていく。地域の中で市民が文化的なものに巻き込まれていく」という「飯田らしい文化施設」

◆1班 小さな日常を取り込む

これまでの文化会館は、大人数が集まる大きな活動が多かった。これからの時代は、様々な分野の小さな活動がたくさんあることも大切。

非日常の中に日常をどうやって取り込んでいくのが、新しい文化会館に求められているのではないかと。

◆2班 非日常を取り巻く日常

日常と非日常を外・中・内の空間的な視点から捉えて、外では楽器を演奏したり、踊ったりする広場。中には、コーヒーを飲んだり、しゃべったりする多目的な空間。さらにその内側には、専門的なホールで非日常の特別な世界が広がっている空間をイメージした。

◆3班 人が集まりつながっていく

心の充実こそが賑わいである。数人が集まってつながっていく。日常の中にそういう場があるというのが、賑わいの一つのあり方ではないかと。

色んな人が集うことで、新しいつながりが生まれる楽しい場所になると思う。

◆4班 楽しみが育つ場所

老若男女、家族連れも来て、そこでやっていることでつながる。

興味を持ったら自分もやれるような場所。
自由に楽しみが育つ場になって欲しい。

◆5班 まちとのつながり

飯田下伊那の伝統芸能などの情報発信や研究の場になる。コンサートの後に美味しいものが食べられるようなまちとのつながりがあったりするのも面白い。